

クーデンホーフ=カレルギー一家の人々

山口 忠

現在、ヨーロッパでは、ギリシャの経済破綻が大きな問題となっており、新聞やテレビで連日この問題に関する報道が続いています。ヨーロッパで民族紛争や国家間の問題が起こると、私はクーデンホーフ=カレルギー一家の人々のことを思い出します。

中学生の時、NHK開局25周年記念ドラマ「国境のない伝記」（主演吉永小百合）という番組を見ました。明治時代、オーストリア=ハンガリー帝国の外交官と結婚し、彼の母国に渡り彼の地で生涯を終えた青山光子という女性とその子どもたちの物語でした。日本人としては初めて正式の国際結婚でヨーロッパ貴族と結婚した彼女は、渡欧に当たり明治天皇の皇后から「異国にいても日本人の誇りを忘れないでください。」との励ましの言葉をかけられ、それを支えに知り合いもなく言葉も通じない異国で懸命に生き抜きます。

ところが、夫のハインリッヒ・クーデンホーフ=カレルギー伯爵は早世し、彼女は7人の子どもたちを抱えて夫の一族との遺産争いに奔走します。さらに、第一次世界大戦後オーストリア=ハンガリー帝国は崩壊し、クーデンホーフ=カレルギー家もほとんどの財産を消失してしまいました。その後、光子も脳溢血により右半身不随となり、苦難の晩年を送ることになります。彼女は、1941年、長女オルガに看取られて困窮のうちに亡くなりました。

彼女の次男リヒャルトは「汎ヨーロッパ主義」を提唱し、欧州連合構想の先駆けとなります。当時のヨーロッパは、第一次世界大戦の戦禍によって疲弊し、ファシズムが台頭しつつありました。このような状況の中で、彼は友愛思想による民族の融和とヨーロッパ統合の必要性を説きました。しかし、彼の思想はヒトラーによって有害と見なされ、ヨーロッパ各国からアメリカへと逃避します。第二次世界大戦後、彼はヨーロッパ議員同盟を創設し、ヨーロッパ共同体の進展に尽力しました。

この一家の生き方に共感を受け、彼らについてもっと知りたい、調べてみたいという気持ちはありましたが、その機会のないままに数年が過ぎました。しかし、大学生の時に、神田の古書店で偶然「クーデンホーフカレルギー全集」（鹿島出版会）を見つけて早速購入しました。その後も、「暗い血の旋律」（松本清張・文春文庫）「クーデンホーフ光子伝」（木村毅・鹿島出版会）、「クーデンホーフ光子 黒い瞳の伯爵夫人」（南川三治郎・シュミット村木真寿美・河出書房新社）等、クーデンホーフ=カレルギー家に関する書籍を見つけるとできるだけ読むようにしました。最近、「レディーミツコ」（大和和紀・講談社コミック）という漫画があることを知り、機会があれば読んでみたいと思います。

ところで、彼が夢見たヨーロッパ統合は、1993年「欧州連合」として結実しました。加盟国は27ヶ国を数え、単一通貨としてユーロが導入されています。しかし、ユーゴスラビア紛争に代表される民族間の対立、今回のギリシャ危機のような経済的問題等多くの課題が残されています。

さて、クーデンホーフ=カレルギー全集は、読破できないまま、現在も我が家の書棚に重々しく鎮座しています。退職して時間にゆとりができたなら、是非とも読んでみたいと考えています。また、一族の居城ロンスベルク城は長く荒廃していましたが、現在は整備されて資料館になっているとのこと。本当は行ってみたいのですが、なかなか行けないと思いますので、写真だけでも見られればと思っています。

(やまぐち・ただし 村田小学校長)

7月の予定

・おはなし会 午後3時から 児童室にて

7月11日(日)

『花のかみかざり』『にゃーご』

7月19日(日)

『うみべのハリー』『ぼくのすきなおじさん』

・フックスタートクラブ たなぼたまつり

更生保護女性会明野支部の方と、たなぼたまつりを行います。

日時：7月7日(水)

午前10時～正午まで

会場：明野図書館 視聴覚室

内容：七夕かざり・短冊づくり・歌・紙しばい・手あそび ほか

図書館カレンダー

7月 JUL						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

【開館時間】

午前10時から
午後6時まで

■は休みです。

8月 AUG						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				